



令和7年度 活動報告書

女性に寄り添う。命に寄り添う。
ヨノナカがちょっと良くなる。

非営利活動法人きびる



MISSION



特定非営利活動法人きびるは、
妊娠・出産・育児に関する正しい
情報の提供とサポートを通じて、
一人一人の女性や生まれてくるい
のちとその家族に伴走します。

GOAL



母子が健やかに暮らしていくた
めの支援を行い、孤立予防と虐
待防止に寄与することをミッシ
ョンとしています。



「さずかり・はぐくみ・うみ・そだてる」をまるごと受け止める。



助産師・看護師を中心とした専門家チーム



令和7年度 年間実績ハイライト

「学び・交流・相談」を一体化した多層的支援の実現

赤い羽根共同募金、前田和子基金、行政協働事業を活用し、妊娠・出産・育児期の家庭から医療的ケア児家庭まで、切れ目のない支援を展開しました。





地域の中の「居場所」をつくる

令和7年度 群馬県共同募金会「今ある活動をそだてる助成」

妊娠子育てSOS ハグ&ステップ事業

「つつみこむように、そして次のステップへ
アシストをもらえるように…」
そんな願いを込めて、このネーミングにしました。

【主な取り組み】

- 栄養講座 / 睡眠ケア講座
- 歯並び・成長講座
- 産後ケア（ヨガ等）
- 出張きびるカフェ（5回実施）

「地域内相談拠点」としての認知が向上し、イベント参加からLINE相談への新規流入が増加しました。（参加者延べ約150名）





新たな子育て支援モデルと父親の参加

令和7年度 赤い羽根「困り事を『他人事』にしない活動」

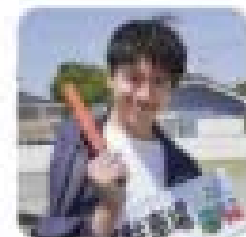
今動き出す！福祉活動スタートアップ助成：みらいを楽しもう！ 育児とそとあそび事業



パパのための VR生理痛体験講座 共感から始まる子育て支援

開催 ①10:45～11:15 ②13:00～13:30

11月1日(成)の日に開催する本イベントでは、まずオープニングで成の日の意味や妊産婦を迎える家族へのエールをお伝えし、その後、VR生理痛体験(ピリオノイド)を通じて女性のからだの変化や痛みを実際に疑似体験していただきます。待機の間には男性看護婦によるミニレクチャーを行い、体験を振り返りながら共感と理解を深めていただき、最後は専門家によるアドバイスとまとめのクロージングで、今日から実践できる「パパにできる小さなサポート」のヒントをお持ち帰りいただけます。



吉田 純哉 (よしだ じゅんや)

東京労働福祉人きびる
保健師・看護師

■ 育児と外遊び教室

父親参加型プログラムを確立。体験型啓発事業として、行政連携へと発展しました。

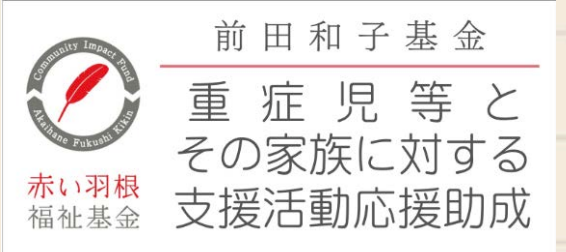
■ パパ向けVR生理痛体験講座

父親が女性の身体的負担を疑似体験する画期的なプログラム。

参加者延べ約90名

医療的ケア児と家族を孤立させない

前田和子基金「重症児とその家族に対する支援活動応援成」



おでかけしよう！！外あそびを通し災害時の対応を考えよう！！

医療的ケア児家庭の交流機会を創出し、災害時の備えと家族の孤立軽減を実現しました。（参加者延べ約120名・4回実施）

【五感体験活動 × 家族交流型イベント】



春：
「おにぎりづくり&
防災について考える」

夏：
大自然いっぱい！
五感を感じる夏の思い出



秋：
味噌づくりで考える
「防災食」

冬：
段ボール避難所を
作ってみよう
～五感で感じる冬の楽しみ～





地域における支援活動

行政・教育機関等との協働事業

専門職による実践的な学びを通じ、地域の支えあいの力を育み、次世代の支援者育成に寄与しました。

【主な取り組み】

- ・男女共同参画事業
- ・性教育講演 / 看護教育研修
- ・ボランティア講座

(参加者延べ約245名・6事業)

地域母子支援の入り口となる24時間365日のLINE相談

- 配信を行わない「受動型運用」においても利用者が自発的にアクセス。
- 本事業は対面相談・医療機関・行政支援へつなぐ「地域の一次相談窓口」として機能しています。



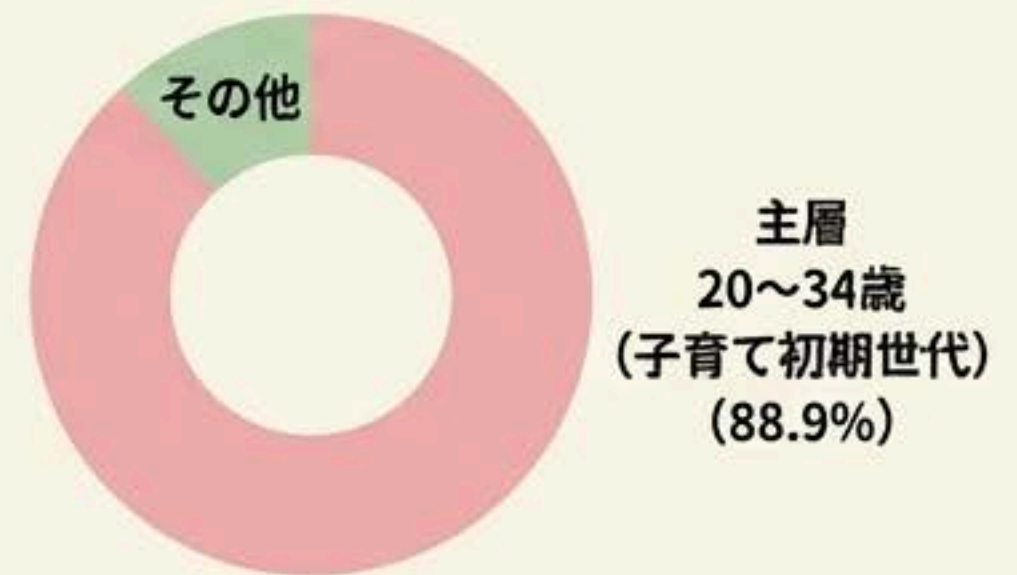
- 月間 **500件以上** の相談対応
- 年間 **約6,000件** 規模
- 地方都市における民間母子相談としては国内有数の相談規模

データが示す相談ニーズの実態と支援の広がり



■ 広域利用の拡大（広域化）

群馬県を拠点としながら、東京、神奈川、大阪など都市部を含む全国から相談が寄せられています。海外在住の日本人からの相談も増加しています。



■ リーチと層の可視化

- 友だち総数： 1,845人 (+81人/月) (継続利用基盤)
- ターゲットリーチ： 1,401人 (潜在支援対象への到達)
- 主層： 20～34歳 (子育て初期世代)
- 女性比率： 88.9%

出産子育て期の女性が主な利用層であり、既存支援につながりにくい層の相談ニーズが可視化されました。匿名性とアクセスのしやすさにより、対面支援につながりにくい若年層・孤立層の相談入り口として機能しています。

相談を起点に支援が循環する地域包括支援モデル



相談・居場所・専門支援が相互につながることで、単発支援に終わらない継続支援の循環が生まれています。

「第二の母」「第二の故郷」のような存在へ

ひとりで抱えなくていいと思える場所へ

- **支援を必要とする時に思い出される場所**
不安や迷いを抱えたときに、匿名でも安心して相談でき、必要な支援へとつながり続けられる場所
- **ただの相談窓口を超えた「伴走者」**
助産師看護職が妊娠期から出産子育て期まで、継続して関わることで単なる「相談窓口」を超えた「伴走者」として信頼関係が生まれています。

不安や迷いを抱えたとき、匿名でも安心して相談できる。
妊娠から子育てに伴う不安や孤立感を抱える人が、ひとりで抱え込まずに相談できる環境を大切にしています。



専門職 × 地域 × 次世代 で支える「きびるクルー」

■ 専門職チーム

助産師、看護師、医師、弁護士などが中心となり、医療的視点からの支援の質を担保しています。

■ プロボノ・学生

学生や若手メンバーが活動に参画し、次世代の支援者育成と地域参加の循環を生み出しています。

■ アンバサダー

医師や専門家による強力なバックアップ体制。専門家ネットワークによる継続的な助言と連携で、地域支援を多角的に支えています。

今後の展望：

ひとりにしない地域をつくるための次の展開

■ 広域支援の拡張

全国規模で利用されるオンライン相談の公共性を活かした体制強化。全国から寄せられる相談実績を基盤に、地域を超えて支援につながる体制を強化します。

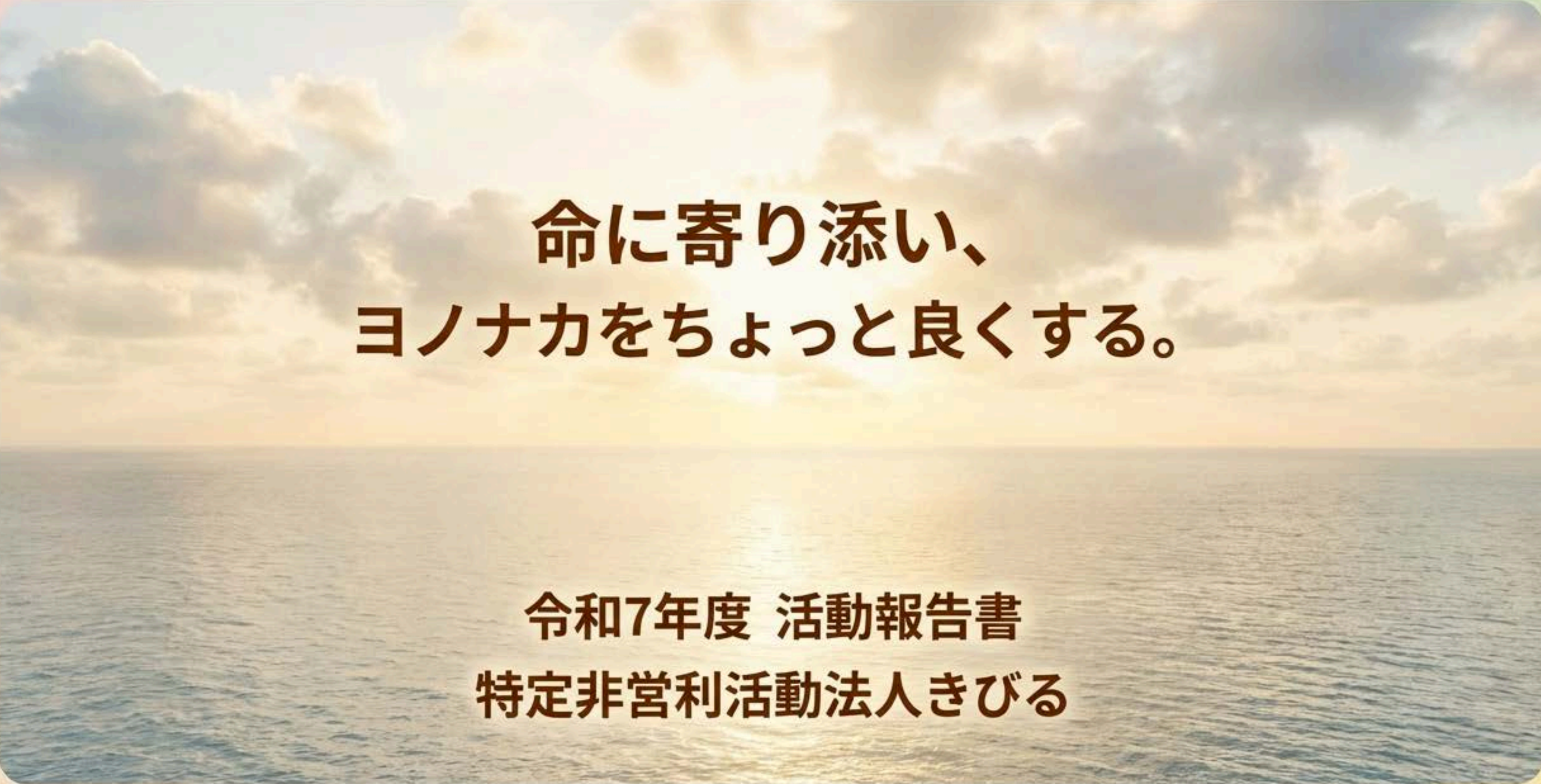
■ 多様なアプローチ

父親支援（VR）や医療的ケア児支援の深化。デジタル技術や医療的専門性を活かし、相談・予防・ケアを一体化した支援へ発展させます。

■ 居場所とシェルター

きびるの新拠点を活用し、緊急避難から日常の居場所まで包括的な支援を実現。新たな拠点を活用し、緊急時から日常ケアまで多様なニーズに切れ目のない支援を実現します。





**命に寄り添い、
ヨノナカをちょっと良くする。**

**令和7年度 活動報告書
特定非営利活動法人きびる**